

IN THE U.S. PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant: WATANABE, Kenichi Conf.:
Appl. No.: NEW Group:
Filed: September 10, 2003 Examiner:
For: COMMUNICATION APPARATUS

L E T T E R

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

September 10, 2003

Sir:

Under the provisions of 35 U.S.C. § 119 and 37 C.F.R. § 1.55(a), the applicant(s) hereby claim(s) the right of priority based on the following application(s):

<u>Country</u>	<u>Application No.</u>	<u>Filed</u>
JAPAN	2002-265943	September 11, 2002

A certified copy of the above-noted application(s) is(are) attached hereto.

If necessary, the Commissioner is hereby authorized in this, concurrent, and future replies, to charge payment or credit any overpayment to Deposit Account No. 02-2448 for any additional fee required under 37 C.F.R. §§ 1.16 or 1.17; particularly, extension of time fees.

Respectfully submitted,

BIRCH, STEWART, KOLASCH & BIRCH, LLP

By  (reg. # 40,417)
for Terrell C. Birch, #19,382

TCB/tmr
1247-0520P

P.O. Box 747
Falls Church, VA 22040-0747
(703) 205-8000

Attachment(s)

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

WATANABE
BSKB-LLP
703-205-8000
September 14, 2003
1247-0320P
10F1

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 9月11日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-265943

[ST.10/C]:

[JP2002-265943]

出 願 人

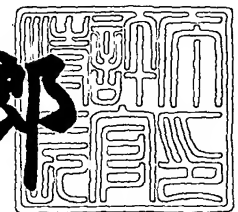
Applicant(s):

シャープ株式会社

2003年 6月12日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特2003-3045892

61987/03R00360/US/JJE

【書類名】 特許願
【整理番号】 02J03017
【提出日】 平成14年 9月11日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 H04M 1/02
H04M 1/65
H04M 1/725

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内

【氏名】 渡邊 健一

【特許出願人】

【識別番号】 000005049

【氏名又は名称】 シャープ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100075557

【弁理士】

【フリガナ】 サイヨウ

【氏名又は名称】 西教 圭一郎

【電話番号】 06-6268-1171

【選任した代理人】

【識別番号】 100072235

【弁理士】

【氏名又は名称】 杉山 毅至

【選任した代理人】

【識別番号】 100101638

【弁理士】

【氏名又は名称】 廣瀬 峰太郎

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2001-276977

【出願日】 平成13年 9月12日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 009106

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0208451

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 通信装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 インターネットファクシミリ等のインターネットへ接続可能な通信装置において、

該インターネットへの接続手段を備える装置本体と、

該装置本体に対して着脱可能な、または該装置本体とは別ユニットとして携帯可能な記憶装置とを含み、

該記憶装置は、

インターネットに関する情報として、通信対象となる情報またはインターネット接続に必要な設定情報のうちの少なくとも一方を記憶可能であり、

かつ、記憶している情報を表示する表示手段と、

表示手段に表示する情報の編集操作の入力手段とを備え、

該装置本体の接続手段は、記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、インターネットを介する通信を行うことを特徴とする通信装置。

【請求項 2】 前記装置本体は、前記記憶装置に記憶されるインターネットに関する情報が有効または無効となるように設定する設定手段をさらに備えることを特徴とする請求項 1 記載の通信装置。

【請求項 3】 前記装置本体は、前記設定手段の設定内容および前記記憶装置の装着状態に応答する警告手段をさらに備え、

該警告手段は、

該設定手段に前記インターネットに関する情報が有効となるように設定されていて、該記憶装置が装着されていない場合、記憶装置が装着されていないことを知らせる警告を発し、また、複数の記憶装置が装着されている場合、どの記憶装置を有効とするかの指定を促す警告を発し、

該設定手段に該インターネットに関する情報が無効となるように設定されていて、かつ該記憶装置が装着されている場合、記憶装置が無効となっていることを知らせる警告を発することを特徴とする請求項 1 記載の通信装置。

【請求項 4】 インターネットへ接続可能な通信装置において、
該装置本体と分離可能で、装置本体と連携して動作するように接続可能な分離ユニットを含み、

該分離ユニットは、インターネットに関する情報として、通信対象となる情報またはインターネット接続に必要な設定情報のうちの少なくとも一方を記憶可能な記憶手段を備え、

該装置本体または該分離ユニットのうちの少なくとも一方は、分離ユニットの記憶手段に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、インターネットを介する通信を行う接続手段を備えることを特徴とする通信装置。

【請求項 5】 前記装置本体または前記分離ユニットに対して着脱可能な、または別ユニットとして携帯可能な記憶装置をさらに含み、

該記憶装置は、

インターネットに関する情報として、画像情報またはインターネット接続に必要な設定情報のうちの少なくとも一方を記憶可能であり、

かつ、記憶している情報を表示する表示手段と、

表示手段に表示する情報の編集操作の入力手段とを備え、

該装置本体の接続手段は、記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、インターネットを介する通信を行うことを特徴とする請求項 4 記載の通信装置。

【請求項 6】 前記装置本体は、前記分離ユニットまたは前記記憶装置に記憶されるインターネットに関する情報が有効または無効となるように、それぞれ設定する設定手段をさらに備えることを特徴とする請求項 5 記載の通信装置。

【請求項 7】 前記装置本体は、前記設定手段の設定内容と前記記憶装置の装着状態とに応答する警告手段をさらに備え、

該警告手段は、

該設定手段に該記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報が有効となるように設定されていて、該記憶装置が装着されていない場合、記憶装置が装着されていないことを知らせる警告を発し、また、複数の記憶装置が装着されている場合、どの記憶装置を有効とするかの指定を促す警告を発し、

該設定手段に該記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報が無効となるように設定されていて、かつ該記憶装置が装着されている場合、記憶装置が無効となっていることを知らせる警告を発することを特徴とする請求項 6 記載の通信装置。

【請求項 8】 前記接続手段は、前記設定手段に前記分離ユニットに記憶されているインターネットに関する情報と、前記記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報との両方が有効に設定されていて、該分離ユニットまたは該記憶装置の一方のみが接続または装着されている場合、該一方に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、前記インターネットを介する通信を行うことを特徴とする請求項 6 記載の通信装置。

【請求項 9】 前記接続手段は、前記設定手段に前記分離ユニットに記憶されているインターネットに関する情報と、前記記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報との両方が有効に設定されていて、該分離ユニットが接続され、かつ該記憶装置が装着されている場合、予め設定される優先順位に従って、分離ユニットまたは記憶装置のうちで優先順位が上位側に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、前記インターネットを介する通信を行うことを特徴とする請求項 6 記載の通信装置。

【請求項 10】 前記分離ユニットは、前記装置本体に対して着脱可能で、装着状態でも分離状態でも通信機能の操作入力が可能な操作パネルであることを特徴とする請求項 4 ～ 9 のいずれかに記載の通信装置。

【請求項 11】 前記分離ユニットは、前記装置本体を親機として動作可能な子機であることを特徴とする請求項 4 ～ 10 のいずれかに記載の通信装置。

【請求項 12】 コンピュータを、請求項 1 ～ 11 のいずれかに記載の通信装置として機能させることを特徴とするプログラム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、インターネットファクシミリ装置のようにインターネットに接続可能な通信装置や情報処理装置に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

従来から、コンピュータなどの情報処理装置を、複数のユーザが別個に使用可能なマルチユーザ型のオペレーティングシステム（OS）が用いられている。このようなオペレーティングシステムでは、各ユーザ毎にパスワードなどを設定してログインおよびログアウトの手続を行う必要がある。

【 0 0 0 3 】

電話機やファクシミリ装置などの通信装置において、発信者別に個人情報を磁気カードやメモリカードなどの携帯型記憶装置に記憶し、複数の使用者がそれぞれ秘密保持を行いながら共同で使用する通信装置や方法は既に開示されている。このような方法では、ログインやログアウトの手続は不要である。

【 0 0 0 4 】

特開昭 6 0 - 1 1 6 2 5 9 号公報では、個人情報を記憶する携帯型記憶装置を用いることにより、どの端末装置を用いても自分が設定したオートダイヤルまたは短縮ダイヤルコードを使用できる方法が開示されている。この携帯型記憶装置、たとえば磁気カードには個人認識コードまたは所有者が設定したオートダイヤルあるいは短縮ダイヤルコードが記憶されている。この磁気カードをオートダイヤル装置、電話機などの端末装置に装着して、磁気カードの内容を端末装置に入力する。これにより、どの端末機器を用いても磁気カードの所有者が、自分が設定したオートダイヤルまたは短縮ダイヤルコードを使用して操作し、相手を呼び出すことができる。

【 0 0 0 5 】

特開昭 6 3 - 1 0 8 8 4 9 号公報では、個人が必要とする情報を記憶し、通信端末装置に対して着脱可能なカード磁気記録媒体などの持ち運びが可能なパーソナル通信記録媒体が開示されている。このパーソナル通信記録媒体により、今まで電話機に格納していた情報を電話機から切り離して運用できる。前記パーソナル通信記録媒体にキー入力を用いて個人が必要とする名前、電話番号、相手へのメッセージなどの情報を記憶させる。そして、パーソナル通信記録媒体を電話機側のインタフェースに接続すると、電話機はパーソナル通信記録媒体に記憶され

ている情報により相手を自動的に呼び出し、メッセージを読み出して相手に送信する。その後、相手側からのメッセージが入ったことをインタフェースが認識すると、パーソナル通信記録媒体にこのメッセージを書き込む。

【 0 0 0 6 】

特開平 1 - 1 3 7 7 6 7 号公報では、必要なメモリ部分をメモリカードとし、電話機本体を着脱自在のメモリカードに対応できる回路構成としたメモリカード付き電話機が開示されている。この電話機により、短縮ダイヤル、会話音声の録音、再生などの機能を可能にする。

【 0 0 0 7 】

特開平 8 - 8 4 1 9 7 号公報では、携帯性のある情報通信カードを用いることにより、利用者の必要とする最適な通信網を自動的に選択して通信できるようにし、多様化する情報通信網や通信サービスを意識することなく効率的に利用できるシステムが開示されている。

【 0 0 0 8 】

特開平 8 - 9 7 8 5 2 号公報では、1つの移動端末、たとえば P D A（携帯端末）を複数のユーザが共有することができ、かつ、時間、場所を問わず、ユーザが任意の着信条件をメールサーバから電子メールを自動的に取得しうる構成のモバイルメールシステムが開示されている。ユーザがメールサーバへのアクセス許可情報やメール着信条件などを機密性ある I C カードの記憶領域に記憶して所持し、システム使用時にこれを装着する。P D A は、I C カードから個人情報を読み出して認証を行った後、メール着信条件をメールサーバに更新自在に登録する。メールサーバは、メール着信監視部と条件判定処理部でこの条件に合致する電子メールの着信を監視し、着信したときはそのヘッダ情報を自動的に送信する。F A X などへの転送が指定されているときはそれを実行する。

【 0 0 0 9 】

特開平 1 0 - 5 1 3 4 9 号公報では、複数の個人番号および複数人の情報を個々に管理できる記憶部を持たせることによって、複数利用者が各々の利用者に応じた設定で利用できる携帯用通信機が開示されている。

【 0 0 1 0 】

特開平 1 0 - 2 8 3 2 9 2 号公報では、個人識別情報と、電子メール動作環境設定情報と、電子メール記憶領域指定情報と、送信用に作られた電子メール、および受信された電子メールを記憶することが可能であり、メール環境を変更する付加プログラムの作用により当該携帯型記憶媒体内に個人メールの蓄積を行うことを可能にした、ネットワークに接続された端末装置に使用する個人別に割り当てた携帯型記憶媒体が開示されている。

【 0 0 1 1 】

特開 2 0 0 0 - 3 3 0 9 0 4 号公報では、外部メモリの装填部と、装填部に装填された外部メモリに記憶されている I S P (Internet Service Provider) 情報や、ユーザのメールアカウント情報などのネットワーク通信機能を使用する際に必要な情報を読み出し、この読み出した情報を用いて、ネットワーク通信機能の送受のアクセスを実行するとともに、ネットワーク通信により受信したデータは、外部メモリに格納するネットワーク通信機能実行手段を備えることを特徴とし、1つの端末装置のネットワーク通信機能、たとえば電子メール機能を、任意のユーザが、簡単な操作で使用可能にするネットワーク通信機能付き端末装置が開示されている。

【 0 0 1 2 】

【特許文献 1】

特開昭 6 0 - 1 1 6 2 5 9 号公報

【特許文献 2】

特開昭 6 3 - 1 0 8 8 4 9 号公報

【特許文献 3】

特開平 1 - 1 3 7 7 6 7 号公報

【特許文献 4】

特開平 8 - 8 4 1 9 7 号公報

【特許文献 5】

特開平 8 - 9 7 8 5 2 号公報

【特許文献 6】

特開平 1 0 - 5 1 3 4 9 号公報

【特許文献 7】

特開平 1 0 - 2 8 3 2 9 2 号公報

【特許文献 8】

特開 2 0 0 0 - 3 3 0 9 0 4 号公報

【0 0 1 3】

【発明が解決しようとする課題】

上述した従来技術においても、通信装置などを共通に使用する複数の使用者に対し、個人毎の情報の管理は既に行われている。しかし、インターネットファクシミリ装置のようなインターネットに接続可能な通信装置や情報処理装置において、インターネットに関する個人毎の情報の管理はできず、また、画像を記憶させることもできない。

【0 0 1 4】

ログインおよびログアウト手続を必要とするマルチユーザのオペレーティングシステムでは、パスワードなどが適切に管理されている限り、ユーザ同士では秘密保持可能であるけれども、システムの管理者はあらゆる情報にアクセスすることができる。

【0 0 1 5】

電話機やファクシミリ装置などの通信装置において、発信者別に個人情報を磁気カードやメモリカードなどの携帯型記憶装置に記憶し、複数の使用者がそれぞれ秘密保持を行いながら共同で使用する通信装置や方法、および、一人の使用者が複数台の通信装置の中から任意の 1 台を選択し、個人情報を記憶させた携帯型記憶装置を装着することにより、どの通信装置を使用する場合も同じ環境で使用するができる通信装置や方法はすでに開示されている。

【0 0 1 6】

しかし、これらの通信装置または方法においては、いずれも記憶装置は通信装置から取外された状態では機能せず、内容の確認、修正、新規入力等を行うためには、必ず通信装置に装着する必要がある。

【0 0 1 7】

本発明の目的は、複数の使用者が使用する通信装置で、インターネットに関す

る情報を個人的に記憶して、簡単に利用することができ、相互の秘密保持も確実に行うことが可能で、各使用者が自分専用であるかのように使用することができる通信装置を提供することである。

【 0 0 1 8 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、インターネットファクシミリ等のインターネットへ接続可能な通信装置において、

該インターネットへの接続手段を備える装置本体と、

該装置本体に対して着脱可能な、または該装置本体とは別ユニットとして携帯可能な記憶装置とを含み、

該記憶装置は、

インターネットに関する情報として、通信対象となる情報またはインターネット接続に必要な設定情報のうちの少なくとも一方を記憶可能であり、

かつ、記憶している情報を表示する表示手段と、

表示手段に表示する情報の編集操作の入力手段とを備え、

該装置本体の接続手段は、記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、インターネットを介する通信を行うことを特徴とする通信装置である。

【 0 0 1 9 】

本発明に従えば、インターネットファクシミリ等のインターネットへ接続可能な通信装置は、装置本体と記憶装置とを含む。記憶装置は、インターネットに関する情報として、通信対象となる情報またはインターネット接続に必要な設定情報のうちの少なくとも一方を記憶可能であり、装置本体に対して着脱可能であるか、または装置本体とは別ユニットとして携帯可能である。記憶装置には、記憶している情報を表示する表示手段と、表示手段に表示する情報の編集操作の入力手段とが備えられている。装置本体は、記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、インターネットを介する通信を行う接続手段を備えているので、記憶装置を装置本体に装着すれば、記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、インターネットファクシミリ等の通信を

行うことができる。

【 0 0 2 0 】

記憶装置を装置本体から離脱させれば、記憶されている情報の秘密を確実に保持することができる。記憶装置に記憶されている情報は、表示手段と入力手段とを用いて新規に入力したり、修正したりする編集操作が可能であるので、装置本体への非装着時であっても、記憶されているインターネット接続設定に必要な個人情報等の閲覧や修正、新規入力等を行うことができる。記憶装置を装置本体に装着して通信を行って得られる各種情報や、受信したメールなどの通信対象となる情報を、装置本体から取外した状態の記憶装置の表示手段で表示させて閲覧したり、簡単な編集処理を行うことが可能となり、さらには、記憶装置を装置本体から取外した状態で、送信しようとするメールの新規作成や、編集などの処理を行う等、いわゆるオフライン操作を行うことができる。

【 0 0 2 1 】

また本発明で、前記装置本体は、前記記憶装置に記憶されるインターネットに関する情報が有効または無効となるように設定する設定手段をさらに備えることを特徴とする。

【 0 0 2 2 】

本発明に従えば、設定手段によって、記憶装置を装置本体に装着するとき、記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報を有効または無効に設定することができる。無効に設定すれば、記憶装置を装置本体に装着しても、記憶されているインターネットに関する情報を利用しないで通信を行うことができる。有効に設定すれば、各使用者の個人情報に従ってインターネットを介する通信を行うことができる。

【 0 0 2 3 】

また本発明で、前記装置本体は、前記設定手段の設定内容および前記記憶装置の装着状態に応答する警告手段をさらに備え、

該警告手段は、

該設定手段に前記インターネットに関する情報が有効となるように設定されていて、該記憶装置が装着されていない場合、記憶装置が装着されていないこと

を知らせる警告を発し、また、複数の記憶装置が装着されている場合、どの記憶装置を有効とするかの指定を促す警告を発し、

該設定手段に該インターネットに関する情報が無効となるように設定されていて、かつ該記憶装置が装着されている場合、記憶装置が無効となっていることを知らせる警告を発することを特徴とする。

【 0 0 2 4 】

本発明に従えば、設定手段への設定と記憶装置の装着状態とで矛盾が生じると、警告手段によって警告が発せられる。警告手段は、設定手段にインターネットに関する情報が有効となるように設定されていて、記憶装置が装着されていない場合には、記憶装置が装着されていないことを知らせる警告を発し、また、複数の記憶装置が装着されている場合には、どの記憶装置を有効とするかの指定を促す警告を発するので、有効な記憶装置が装着されるように、使用者の注意を促すことができる。警告手段は、設定手段に、インターネットに関する情報が無効となるように設定されていて、かつ記憶装置が装着されている場合、記憶装置が無効となっていることを知らせる警告を発するので、使用者に記憶装置が無効であることを確実に知らせることができる。

【 0 0 2 5 】

さらに本発明は、インターネットへ接続可能な通信装置において、
該装置本体と分離可能で、装置本体と連携して動作するように接続可能な分離ユニットを含み、

該分離ユニットは、インターネットに関する情報として、通信対象となる情報またはインターネット接続に必要な設定情報のうちの少なくとも一方を記憶可能な記憶手段を備え、

該装置本体または該分離ユニットのうちの少なくとも一方は、分離ユニットの記憶手段に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、インターネットを介する通信を行う接続手段を備えることを特徴とする通信装置である。

【 0 0 2 6 】

本発明に従えば、インターネットへ接続可能な通信装置は、装置本体と分離ユニットとを含む。分離ユニットは、装置本体と分離可能で、装置本体と連携して

動作するように接続可能であり、インターネットに関する情報として、通信対象となる情報またはインターネット接続に必要な設定情報のうちの少なくとも一方を記憶可能な記憶手段を備える。装置本体または分離ユニットのうちの少なくとも一方は、分離ユニットの記憶手段に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、インターネットを介する通信を行う接続手段を備えているので、分離ユニットを装置本体に接続すれば、記憶手段に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、インターネットを介する通信を行うことができる。分離ユニットを装置本体から切離せば、記憶手段に記憶されている情報の秘密を確実に保持することができる。

【 0 0 2 7 】

また本発明は、前記装置本体または前記分離ユニットに対して着脱可能な、または別ユニットとして携帯可能な記憶装置をさらに含み、

該記憶装置は、

インターネットに関する情報として、通信対象となる情報またはインターネット接続に必要な設定情報のうちの少なくとも一方を記憶可能であり、

かつ、記憶している情報を表示する表示手段と、

表示手段に表示する情報の編集操作の入力手段とを備え、

該装置本体の接続手段は、記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、インターネットを介する通信を行うことを特徴とする。

【 0 0 2 8 】

本発明に従えば、インターネットファクシミリ等のインターネットへ接続可能な通信装置は、装置本体と分離ユニットとの外に、記憶装置をさらに含む。記憶装置は、インターネットに関する情報として、通信対象となる情報またはインターネット接続に必要な設定情報のうちの少なくとも一方を記憶可能であり、装置本体または分離ユニットに対して着脱可能であるか、または別ユニットとして携帯可能である。記憶装置には、記憶している情報を表示する表示手段と、表示手段に表示する情報の編集操作の入力手段とが備えられている。装置本体は、記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、インターネットを介する通信を行う接続手段を備えているので、記憶装置を装置本体に装着す

れば、記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、インターネットファクシミリ等の通信を行うことができる。

【 0 0 2 9 】

記憶装置を装置本体や分離ユニットから離脱させれば、記憶されている情報の秘密を確実に保持することができる。記憶装置に記憶されている情報は、表示手段と入力手段とを用いて新規に入力したり、修正したりする編集操作が可能であるので、装置本体への非装着時であっても、記憶されているインターネット接続設定に必要な個人情報等の閲覧や修正、新規入力等を行うことができる。記憶装置を装置本体または分離ユニットに装着して通信を行って得られる各種情報や、受信したメールなどの通信対象となる情報を、装置本体や分離ユニットから取外した状態の記憶装置の表示手段で表示させて閲覧したり、簡単な編集処理を行うことが可能となり、さらには、記憶装置を装置本体や分離ユニットから取外した状態で、送信しようとするメールの新規作成や、編集などの処理を行う等、いわゆるオフライン操作を行うことができる。

【 0 0 3 0 】

また本発明で、前記装置本体は、前記分離ユニットまたは前記記憶装置に記憶されるインターネットに関する情報が有効または無効となるように、それぞれ設定する設定手段をさらに備えることを特徴とする。

【 0 0 3 1 】

本発明に従えば、設定手段によって、分離ユニットを装置本体に接続するとき、または記憶装置を装置本体または分離ユニットに装着するとき、分離ユニットまたは記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報を有効または無効に設定することができる。無効に設定すれば、分離ユニットを装置本体に接続したり、記憶装置を装置本体または分離ユニットに装着しても、記憶されているインターネットに関する情報を利用しないで通信を行うことができる。有効に設定すれば、各使用者の個人情報に従ってインターネットを介する通信を行うことができる。

【 0 0 3 2 】

また本発明で、前記装置本体は、前記設定手段の設定内容と前記記憶装置の装

着状態とに応答する警告手段をさらに備え、

該警告手段は、

該設定手段に該記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報が有効となるように設定されていて、該記憶装置が装着されていない場合、記憶装置が装着されていないことを知らせる警告を発し、また、複数の記憶装置が装着されている場合、どの記憶装置を有効とするかの指定を促す警告を発し、

該設定手段に該記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報が無効となるように設定されていて、かつ該記憶装置が装着されている場合、記憶装置が無効となっていることを知らせる警告を発することを特徴とする。

【 0 0 3 3 】

本発明に従えば、設定手段への設定と記憶装置の装着状態とで矛盾が生じると、警告手段によって警告が発せられる。警告手段は、設定手段にインターネットに関する情報が有効となるように設定されていて、記憶装置が装置本体または分離ユニットのいずれにも装着されていない場合には、記憶装置が装着されていないことを知らせる警告を発し、また、複数の記憶装置が装着されている場合には、どの記憶装置を有効とするかの指定を促す警告を発するので、有効な記憶装置が装着されるように、使用者の注意を促すことができる。警告手段は、設定手段に、インターネットに関する情報が無効となるように設定されていて、かつ記憶装置が装着されている場合、記憶装置が無効となっていることを知らせる警告を発するので、使用者に記憶装置が無効であることを確実に知らせることができる。

【 0 0 3 4 】

また本発明で、前記接続手段は、前記設定手段に前記分離ユニットに記憶されているインターネットに関する情報と、前記記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報との両方が有効に設定されていて、該分離ユニットまたは該記憶装置の一方のみが接続または装着されている場合、該一方に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、前記インターネットを介する通信を行うことを特徴とする。

【 0 0 3 5 】

本発明に従えば、設定手段に、分離ユニットの記憶手段に記憶されるインターネットに関する情報と、記憶装置に記憶されるインターネットに関する情報とが有効であると設定されている場合に、分離ユニットが接続されて記憶装置が装着されていなければ分離ユニットの情報、分離ユニットが接続されていなくて記憶装置が装着されていれば記憶装置の情報をそれぞれ利用して、インターネットを介する通信を行うので、単に一方を接続または装着するだけで、インターネットを介する個人的な通信を行うことができる。

【 0 0 3 6 】

また本発明で、前記接続手段は、前記設定手段に前記分離ユニットに記憶されているインターネットに関する情報と、前記記憶装置に記憶されているインターネットに関する情報との両方が有効に設定されていて、該分離ユニットが接続され、かつ該記憶装置が装着されている場合、予め設定される優先順位に従って、分離ユニットまたは記憶装置のうちで優先順位が上位側に記憶されているインターネットに関する情報を利用して、前記インターネットを介する通信を行うことを特徴とする。

【 0 0 3 7 】

本発明に従えば、インターネットに関する情報を記憶している分離ユニットや記憶装置を同時に複数接続したり装着して、それぞれが有効に設定されていても、予め優先順位が設定されているので、優先順位に従ってインターネットを介する通信に使用する情報を選択することができる。

【 0 0 3 8 】

また本発明で、前記分離ユニットは、前記装置本体に対して着脱可能で、装着状態でも分離状態でも通信機能の操作入力可能な操作パネルであることを特徴とする。

【 0 0 3 9 】

本発明に従えば、装置本体に対して着脱可能で、装着状態でも分離状態でも通信機能の操作入力可能な操作パネルに、記憶手段を備えさせたり、記憶装置を装着させたりして、インターネットに関する情報を記憶させることができ、記憶されている情報を利用してインターネットを介する通信を行うことができる。

【 0 0 4 0 】

また本発明で、前記分離ユニットは、前記装置本体を親機として動作可能な子機であることを特徴とする。

【 0 0 4 1 】

本発明に従えば、装置本体を親機として動作可能な子機を分離ユニットとして、記憶手段を備えさせたり、記憶装置を装着させたりして、インターネットに関する情報を記憶させることができ、記憶されている情報を利用してインターネットを介する通信を行うことができる。

【 0 0 4 2 】

さらに本発明は、コンピュータを、前述のいずれかに記載の通信装置として機能させることを特徴とするプログラムである。

【 0 0 4 3 】

本発明に従えば、汎用的なコンピュータに、記憶装置や分離ユニットを備えて、記憶装置や分離ユニットにインターネットに関する個人的な情報を記憶し、トインターネットを介する通信を行わせることができる。

【 0 0 4 4 】

【発明の実施の形態】

本発明は、通常の P S T N (Public Switched Telephone Network)、I S D N (Integrated Service Digital Network) などの公衆回線を通じ、あるいは、直接、インターネット回線網に接続することが可能なインターネットファクシミリ装置（以下、I - F A X 装置という）、インターネット接続電話機などのインターネットに接続可能な通信装置および情報処理装置すべてに適用することができるけれども、ここでは、I - F A X 装置を例に取り説明する。

【 0 0 4 5 】

なお、インターネット回線網に接続するためには、P S T N の公衆回線に接続する加入者線をブロードバンド化する x S D L と呼ばれる技術の一種である A D S L (Asymmetric Digital Subscriber Line) を利用して、通信速度を高めることもできる。また、ブロードバンド化されている通信線として、C A T V (Cable TeleVision) などの配信ケーブルを利用したり、F T T H (Fiber To The

Home) などの光ファイバを利用することもできる。

【 0 0 4 6 】

図 1 は、本発明の実施の一形態として、I - F A X 装置 1 の概略的な外觀構成を斜視して示す。I - F A X 装置 1 は、従来のファクシミリ画像通信に加え、H T M L (Hyper Text Markup Language) を解釈し、W e b ページなどのインターネット画像を受信したり、電子メールで画像や、テキストなどの情報を送受信することができる。I - F A X 装置 1 は、親機 2 と、親機 2 に無線通信を介して接続される子機 3 とを有する。また、I - F A X 装置 1 は、子機 3 を 1 台あるいは複数台有接続可能であり、その子機 3 は、I - F A X 装置 1 の親機 2 とともにコードレスで外部と通話が可能である。また子機 3 から親機 2 を介してインターネットへ接続することもできる。

【 0 0 4 7 】

親機 2 は、装置本体であるファクシミリ本体 4、ファクシミリ本体 4 にカールコード 6 で接続されている送受話器 5、画像読取り装置であるハンドスキャナ 7、アンテナ 8、キー操作部 9、ダイヤルキー 1 0、表示装置 1 1、I C メモリカード記憶装置 1 2 などを有している。

【 0 0 4 8 】

操作パネル着脱部 1 3 は、親機 2 の操作キー 9 の一部、ダイヤルキー 1 0、および表示装置 1 1 を有しており、ファクシミリ本体 4 と着脱可能な装置である。また、操作パネル着脱部 1 3 には、記憶手段であるメモリとともに、動作に必要な充電式バッテリーが搭載されており、ファクシミリ本体 4 に装着されると、接続コネクタ部 1 4 を通じて充電される。

【 0 0 4 9 】

操作パネル着脱部 1 3、子機 3、および I C メモリカード記憶装置 1 2 は、ファクシミリ本体 4 と着脱可能なユニットであるか、あるいは、親機 2 と別ユニットである携帯可能な記憶装置であり、これらに個人情報および個人別インターネット情報が記憶される。I C メモリカード記憶装置 1 2 を、子機 3 あるいは操作パネル着脱部 1 3 に装着可能にすることもできる。

【 0 0 5 0 】

ここで個人情報とは、使用者個々のインターネット接続に関する情報であり、使用者のメールアドレス、DNS (Domain Name System) コード、IDコード、使用者が接続するサーバやメール先などの宛先アドレス、お気に入りまたはブックマークなどと呼ばれ、使用者が個々に登録したURL集、または各種履歴などをいい、これらのうち少なくとも1つが記録される。また、個人別インターネット情報とは、使用者が個々にインターネットから取り込んだ情報であり、インターネットの画像、電子メールの画像、入力した電子メールの画像を含むインターネットで取り扱う画像などをいう。なお、個人別インターネット情報である画像の記憶は、ビットマップ形式で行ってもよいし、HTMLで記述されたままで記憶してもよい。

【 0 0 5 1 】

公衆回線やブロードバンド化された通信線を介してインターネットに接続する場合、ISPを仲介する必要がある。使用者個々にISPと契約し、個人のアカウントで接続するようにして、各ISPへの接続のために必要な情報も、個人情報として記憶しておくようにすることもできる。

【 0 0 5 2 】

ICメモリカード12は、JEIDA (Japan Electronic Industry Development Association) やPCMCIA (Personal Computer Memory Card International Association) に準拠したICメモリカードである。JEIDAやPCMCIAに準拠したICメモリカードを使用することで、ICメモリカードを使用することができるパーソナルコンピュータなどの他の機器でも、ICメモリカード記憶装置12に記憶されているデータを読み出すことができる。なおICメモリカード12としては、デジタルカメラ用などとして普及しているコンパクトフラッシュ (登録商標) やSDカードなどを使用することもできる。

【 0 0 5 3 】

また、操作パネル着脱部13は、操作キー9の一部、ダイヤルキー10および表示装置11を有しているため、ファクシミリ本体4から取外した状態でも、分離ユニットとして、内部の記憶手段に記憶されているインターネットに関する個人別の情報を追加・修正などを行うことができ、その際、表示装置11で確認し

ながら確実に情報の追加・修正などが行える。さらに、後に詳述する子機 3 も表示装置を有しているので、子機 3 を操作することでインターネットに関する個人別の情報の追加・修正などが表示装置で確認しながら確実に行える。

【 0 0 5 4 】

このようなインターネットに関する個人別の情報を、操作パネル着脱部 1 3、子機 3、および IC メモリカード記憶装置 1 2 のいずれか、すなわち携帯可能な記憶装置に記憶できるので、個人別の情報を記憶した記憶装置を各自で携帯でき、個人別の情報の秘密が保持される。また、I - F A X 装置 1 を複数人が共同で使用し、各自が使用する際に前記携帯可能な記憶装置を I - F A X 装置 1 に装着などすることで、1 台の I - F A X 装置 1 をそれぞれ自分だけの装置であるかのように使用することができる。

【 0 0 5 5 】

図 2 は、親機 2 の概略的な電氣的構成を示す。親機 2 は、制御装置 1 5、モデム 1 6、網制御装置 1 7、画像記憶装置 1 8、印刷装置 1 9、画像読取り装置 7、記憶装置 2 0、操作キー 9、ダイヤルキー 1 0、送受話器 5、表示装置 1 1、パラレル I / F 2 1、LAN I / F 2 2、コードレス用制御回路 2 3、アンテナ 8、IC メモリカード I / F 2 4 を含んで構成される。なお、「I / F」は、インタフェースの略称である。LAN は、ローカルエリアネットワークの略称である。また、図 1 の操作パネル着脱部 1 3 は、ファクシミリ本体 4 に装着され、接続コネクタ部 1 4 を介して電氣的接続が行われているものとする。図 1 の IC メモリカード 1 2 は、IC メモリカード I / F 2 4 に着脱可能である。

【 0 0 5 6 】

I - F A X 装置 1 の親機 2 は、網制御装置 1 7 を介して電話回線網 2 5 接続されている。網制御装置 1 7 は、電話回線網 2 5 の状況を監視するとともに、回線をモデム 1 6 側と送受話器 5 側とコードレス用制御回路 2 3 側とに切替える。

【 0 0 5 7 】

制御装置 1 5 は、I - F A X 装置 1 全体の動作や機能を制御するものであり、記憶装置 2 0 に記憶されているプログラムとあいまって、操作キー 9、ダイヤルキー 1 0 からの入力情報、各ユニットからの状態を示す情報、電話回線網 2 5 か

らの信号などの情報を基に、I - F A X装置1全体の動作を決定し、指令を与え、さらに、表示装置11に表示の指示を出す。また、画像の情報の伝送時間を短縮するための圧縮、圧縮された画像信号を元のピクセル列情報に戻す伸長を受け持つ。モデム16は、読取られた画像のデジタル信号を電話回線網25に適したアナログ信号に変調するとともに、電話回線網25から受信した画像のアナログ信号を印刷用のデジタル信号に復調する。

【0058】

印刷装置19は、受信した、または読取られた画像の印刷を行うユニットであり、サーマル方式、電子写真方式、インクジェット方式などがよく用いられる。画像読取り装置7は、送信、コピーのための原稿の読取り装置であり、レンズとCCDラインセンサの組み合わせによる縮小読取り方式、ロッドレンズアレーを用いた密着センサ方式などが用いられる。画像記憶装置18は、読取った画像、受信した画像を記憶するためのユニットである。このユニットを備えることで、多くの複雑な機能、たとえば受信した画像の転送、同報、用紙切れ時の代行受信、メモリ送信などが可能となる。

【0059】

操作キー9、ダイヤルキー10は、使用者が情報や指示をI - F A X装置1に入力するためのユニットである。表示装置11は、使用者に情報を表示したり、ガイダンスを行うユニットである。

【0060】

コードレス用制御回路23は、子機3を制御する回路であり、子機3との接続のための通信路の搜索、接続の確立、電波発信受信のためのチューナなどを含んでいる。アンテナ8は、子機3との送受信を行う電波を発信・受信する。

【0061】

また図1に示されている操作パネル着脱部13は、親機2の記憶装置20、画像記憶装置18および制御装置15の機能の一部を受け持つ装置を有している。

【0062】

I - F A X装置1には、インターネットと通信ができるインタフェースが3種類ある。電話回線網25との通話路、パーソナルコンピュータ（PC）へのイン

タフェースであるパラレル I / F 2 1、LAN 回線網へのインタフェースである LAN I / F 2 2 の 3 種類である。

【 0 0 6 3 】

インターネットと通信するための接続方法として次のようなものが挙げられる。すなわち、通常のファクシミリ送受信は電話回線網 2 5 との接続によって行い、インターネットとの通信にはパラレル I / F 2 1 および LAN I / F 2 2 のどちらかによって行う方法、通常のファクシミリ送受信、インターネットとの通信などすべての通信を電話回線網 2 5 との接続によって行う方法などである。インターネットと通信するための接続方法は、上述した方法でなくてもよく、I - F A X 装置 1 が上述した 3 つのインタフェースをすべて備えていなくてもよい。また図 2 において、PC へのインタフェースがパラレル I / F 2 1 となっているけれども、パラレル I / F でなくてもよい。シリアル I / F や赤外線、無線電波などを利用することもできる。

【 0 0 6 4 】

図 3 は、子機 3 の概略的な電氣的構成を示す。子機 3 は、子機ダイヤルキー 3 1、子機操作キー 3 2、子機表示装置 3 3、子機制御装置 3 4、子機スピーカ 3 5、子機マイク 3 6、子機チューナ 3 7、子機アンテナ 3 8、および子機記憶装置 3 9 を含んで構成される。図示を省略しているけれども、子機 3 には動作に必要な電源となる充電式バッテリーも搭載されており、充電スタンドに装着すると、充電される。前述のように、I C メモリカード 1 2 を子機 3 に装着可能にしておくこともできる。

【 0 0 6 5 】

子機 3 の構成としては、外部との信号のインタフェースが子機アンテナ 3 8 からの電波による通信に限定されていること、画像の入力、出力装置がないこと以外は、図 2 の親機 2 とほぼ同一である。さらに、子機ダイヤルキー 3 1、子機操作キー 3 2、子機表示装置 3 3、子機スピーカ 3 5、子機マイク 3 6 などは、子機 3 全体が携帯型になっているため、それに適合するような小型の形状をしている。子機制御装置 3 4 は、子機 3 全体の動作を制御するとともに、親機 2 との通信に必要な無線通信路設定の機能を併せ持つ。親機 2 との通信手段としては、デ

デジタル方式、アナログ方式のいずれを使用してもよい。

【 0 0 6 6 】

図 4 は、子機 3 とし使用可能な他の外観構成を示す。図 1 に示す子機 3 の外観のような子機表示装置 3 3 はないけれども、子機記憶装置 3 9 を備えていて、子機 3 を使用する使用者の個人情報などを記憶しておけばよい。また、I C メモリカード 1 2 を装着可能にしておくこともできる。

【 0 0 6 7 】

子機 3 は、子機ダイヤルキー 3 1、子機操作キー 3 2、子機表示装置 3 3 を用いてインターネットへ接続することができる。子機 3 からインターネットへ接続する場合には、子機 3 が記憶しているインターネットに関する個人別の情報を用いて接続する。受信したデータなどは子機 3 に記憶させてもよいし、他の携帯可能な記憶装置である操作パネル着脱部 1 3 や I C メモリカード 1 2 に記憶させてもよい。また図 1 において、携帯可能な記憶装置として親機 2 に I C メモリカード 1 2 が装備されているが、携帯可能な記憶装置として I C メモリカード 1 2 を親機 2 に装備しなくてもよい。

【 0 0 6 8 】

I - F A X 装置 1 で画像などを送受信するときは、携帯可能な記憶装置である、操作パネル着脱部 1 3、子機 3 および I C メモリカード 1 2 のうち、少なくとも 1 つを装着あるいは起動させており、それらが装着などされていない場合は、使用者に装着などされていないことを知らせる警告を発する。また、複数の種類の前記携帯可能な記憶装置が装着されている場合、使用者に警告を発し、どの携帯可能な記憶装置に画像などを記憶するかを対話的に指定させる。また、複数の携帯可能な記憶装置がある場合には、事前に記憶させる優先順位を付けてもよい。このようにインターネットに接続する場合、インターネットに関する個人情報を携帯可能な記憶装置に記憶させ、インターネットにより受信などした情報をこれら携帯可能な記憶装置に記憶し、記憶装置を使用者が取外して各自所有する。このように個人の情報を記憶することで、インターネットに関する個人別の情報の秘密が確実に保持される。

【 0 0 6 9 】

以上のような携帯可能な記憶装置に、インターネットに関する個人別の情報を記憶させると、使用者によっては逆に業務が複雑になるなど不都合を生じる場合もある。したがって、インターネット通信に使用する記憶装置をファクシミリ本体 4 の共通部分の記憶装置 2 0 とする設定を行えるようにし、インターネットに関する個人別の情報をそれぞれの記憶装置に記憶しないようにしてもよい。

【 0 0 7 0 】

図 5 は、インターネット 1 0 0 に、図 1 の I - F A X 装置 1 を I - F A X 装置 1 0 1 ~ 1 0 4 として接続する方法の概要を示す。この図 4 では、業務用としてよく用いられる企業 L A N などの L A N ネットワーク 1 1 0 から、通常 I S P と略称されるインターネットサービスプロバイダ（以下、「プロバイダ」という） 1 1 1 を通じてインターネット 1 0 0 に接続する方法と、個人が公衆回線網 1 1 5 からプロバイダ 1 1 1 を通じてインターネット 1 0 0 に接続する方法が図示されている。これらの回路構成は、インターネット 1 0 0 にファクシミリ装置を接続する構成の一例であって、本実施形態の I - F A X 装置 1 のデータ通信回線への接続は、本図に限るものではない。

【 0 0 7 1 】

L A N ネットワーク 1 1 0 を用いる場合、L A N ネットワーク 1 1 0 上にクライアントの端末装置であるパーソナルコンピュータ 1 1 7, 1 1 8 などが接続され、L A N ネットワーク 1 1 0 よりルータ 1 1 9 を経てインターネット 1 0 0 へ接続される。同時に、L A N ネットワーク 1 1 0 にサーバコンピュータ 1 2 0 が接続され、このサーバコンピュータ 1 2 0 に、受信したテキストデータ、ファクシミリ画像、音声などの通信データであって、このサーバコンピュータ 1 2 0 が管理するクライアントへの通信データが一時的に記憶される。

【 0 0 7 2 】

I - F A X 装置 1 0 1 は、図 2 に示すパラレル I / F 2 1 に相当するインタフェースから、直接サーバコンピュータ 1 2 0 とケーブル 1 2 1 で直結される。I - F A X 装置 1 0 2 は、電話回線網あるいは I S D N 回線網である公衆回線網 1 2 2 を通じてサーバコンピュータ 1 2 0 に接続されている。この I - F A X 装置 1 0 2 は、サーバコンピュータ 1 2 0 と公衆回線網 1 2 2 を通じて通話するため

のPPPプロトコルの理解、信号の作成ができる。この通話は、図2に示す網制御装置17に相当する装置を通じて、ISDN回線網を含む公衆回線網122に接続されることで行われる。I-FAX装置103は、図2に示すLANI/F22に相当するインタフェースから直接LANネットワーク110へ接続される。これらのインターネット100にI-FAX装置101～103が接続される回路構成は一例であって、他の回路構成でもよい。

【0073】

I-FAX装置104は、個人が通常用いる方法でインターネット100に接続されている。使用者は、インターネット接続業者であるプロバイダ111と契約し、電話回線網、ISDN回線網などの公衆回線網115を通じ、プロバイダ111が設置するサーバコンピュータ130と接続する。プロバイダ111は、ルータ131を通じてインターネット100に接続し、情報をインターネット100内に送信、あるいはインターネット100より情報の受信を行う。またこのときプロバイダ111は、プロバイダ111の管理するサーバコンピュータ130に、たとえばI-FAX装置104のようなクライアントの送受信情報を記憶する。

【0074】

I-FAX装置101として図1に示すようなI-FAX装置1を用いると、1台を複数の使用者が共用するとき、各使用者毎に利用するプロバイダ111を変えることができる。分離ユニットである操作パネル着脱部13や子機3に、あるいはこれらの分離ユニットに装着するICメモ리카ード12に、各使用者毎に契約しているプロバイダ111のサーバコンピュータ130に接続するために利用するアクセスポイントの電話番号や、PPP (Point-to-Point Protocol) 接続を行うために必要な情報等を記憶しておき、それらの情報を使用して容易に接続を行うことができる。

【0075】

図6は、本発明の実施の他の形態として、I-FAX装置201の概略的な外觀構成を斜視して示す。本実施形態で、図1のI-FAX装置1に対応する部分には同一の参照符を付し、重複する説明を省略する。すなわち、子機3や操作パ

ネル着脱部 1 3 は分離ユニットとして、インターネットに関する個人情報の記憶部として動作させることができる。子機表示装置 3 3 を備える子機 3 や、表示装置 1 1 を備える操作パネル着脱部 1 3 は、複数台取替え接続が可能で、複数の使用者が各自の分離ユニットとして所持し、I - F A X 装置 2 0 1 と連携して使用すれば、I - F A X 装置 2 0 1 をそれぞれの使用者専用の装置と同様に使用可能となるのは、図 1 の I - F A X 装置 1 と同様である。この場合、表示装置を備えているので、記憶された個人情報の表示、新しい個人情報の入力が可能となる。これらの分離ユニットには、動作用の電源として充電式バッテリーなどが搭載されているので、ファクシミリ本体 4 と独立して情報の表示や編集が可能となる。

【 0 0 7 6 】

本実施形態では、インターネット接続の時、個人情報を、携帯型記憶装置 2 0 2 に記憶しておくこともできる。携帯型記憶装置 2 0 は、図 1 の I C メモリカード 1 2 と同様な接続用インタフェースを備えるようにしたり、ファクシミリ本体 4 ばかりではなく、子機 3 や操作パネル着脱部 1 3 に装着可能なようにすることもできる。本実施形態の I - F A X 装置 2 0 1 も、図 2 や図 3 と同様な構成を有し、図 5 と同様にインターネット 1 0 0 に接続することができる。

【 0 0 7 7 】

本実施形態の携帯型記憶装置 2 0 2 は、ダイヤルキー 2 0 5 や操作キー 2 0 6 などを含む簡易なキーボードなどの入力装置と、表示装置 2 0 7 とを備え、内部には記憶手段となるメモリを備える。図 2 に示す制御装置 1 5 は、利用可能な記憶装置のうち、個人情報に関する部分は、直接接続されている着脱可能な記憶部、たとえば携帯型記憶装置 2 0 2、あるいは子機 3 や操作パネル着脱部 1 3 などの分離ユニットに記憶させる。携帯型記憶装置 2 0 2 には、入力装置と表示装置 2 0 7 とが装備されているので、メモリに記憶されている情報の内容を表示して、修正や新規作成などの編集を行うことが可能になる。このように着脱可能な携帯型記憶装置 2 0 2 にインターネットで送受する対象となる情報や接続のために必要な情報などの個人情報を記憶すると、使用後に使用者が携帯型記憶装置 2 0 2 を取外すと、自動的に個人情報を所有し、確実に秘密保持を行うことができる。

【 0 0 7 8 】

操作パネル着脱部 1 2 をファクシミリ本体 4 に装着した状態で、かつ、個人情報 を図 2 に示す記憶装置 2 0 に記憶させている場合は、従来のファクシミリ装置 と同様に、表示装置 1 1 に必要な個人情報を表示させ、操作キー 9 やダイヤルキー 1 0 によって、情報の修正や新規入力を行うことができる。操作パネル着脱部 1 2 内に記憶する情報は、操作パネル着脱部 1 2 をファクシミリ本体 4 から分離 して、単独で動作させている状態でも、装着時と全く同様に、表示や編集を行う ことができる。

【 0 0 7 9 】

本実施形態では、携帯型記憶装置 2 0 2 も使用可能であり、当該携帯型記憶装 置 2 0 2 にも、操作パネル着脱部 1 2 と同様に、ダイヤルキー 2 0 5、操作キー 2 0 6 および表示装置 2 0 7 を装備している。これらによって、操作パネル着脱 部 1 2 と全く同様の機能を持たせ、個人情報の表示、個人情報の修正または新規 作成など、編集処理を行うことを可能にしている。ただし、携帯型記憶装置 2 0 2 については、携帯性を重視して、操作キー 2 0 6 などは操作パネル着脱部 1 2 の操作キー 9 に比べて小さくしなければならない。また、数も少なくするなど、 違いがあってもよい。この場合も、基本的な表示内容および操作環境を共通にし ておくことによって、同等の表示、修正、新規作成などの処理を行うことができ る。

【 0 0 8 0 】

図 7 は、携帯型記憶装置 2 0 2 の概略的な電氣的構成を簡略化して示す。携帯 型記憶装置 2 0 2 は、前述のようにダイヤルキー 2 0 5、操作キー 2 0 6 および 表示装置 2 0 7 を含む。携帯型記憶装置 2 0 2 は、さらに、記憶装置 2 1 0、パ ラレル I / F 2 1 1、バッテリー 2 1 2、および制御装置 2 1 5 を含む。バッテリー 2 1 2 は充電式を用い、パラレル I / F 2 1 1 を図 2 に示すような I C メモリカ ード I / F 2 4 に装着して電氣的な接続をも行う際に、ファクシミリ本体 4 から 充電用の電力を供給して充電させることもできる。充電式の二次電池ではなく、 乾電池などの一次電池を使用することもできる。表示装置 2 0 7 は、液晶表示装 置 (L C D) などを使用することができる。また、ダイヤルキー 2 0 5 や操作キ

ー 2 0 6 と表示装置 2 0 7 とを用いる代りに、タッチパネルなどを用いて、入力と表示を同時に行うようにすることもできる。

【 0 0 8 1 】

なお、ファクシミリ本体 4 は、携帯型記憶装置 2 0 2 に記憶されるインターネットに関する情報が有効または無効となるように設定する設定手段として、操作キー 9 などを利用することもできる。このような設定手段によって、携帯型記憶装置 2 0 2 をファクシミリ本体 4 などに装着するとき、携帯型記憶装置 2 0 2 に記憶されているインターネットに関する情報を無効に設定すれば、携帯型記憶装置 2 0 2 をファクシミリ本体 4 などに装着したままにしても、記憶されているインターネットに関する情報を利用しないで通信を行うことができる。有効に設定すれば、各使用者の個人情報に従ってインターネットを介する通信を行うことができる。

【 0 0 8 2 】

個人別に情報を記憶してインターネットを利用する機能は、携帯型記憶装置 2 0 2 などを常に用意しておかなければならないなど、使用者によっては、逆に業務が複雑になってしまうので、この機能を使用したくない使用者もありうる。このような場合、設定を変え、インターネットを利用する際の情報として、ファクシミリ本体 4 内の記憶装置 2 0 を指定することによって、本機能を外すことが容易に可能となる。

【 0 0 8 3 】

図 8 は、ファクシミリ本体 4 で設定を行う場合の表示と、操作に使用するキーの例を示す。図 8 (a) は、インターネット 1 0 0 から受信するメールやページなどの個人情報の保存先の設定画面の例を示す。図 8 (b) は、保存先をメニュー形式での設定画面の例を示す。図 8 (a) の表示例では、保存先を入力するためのダイアログボックス 2 2 0 内にデフォルトの保存先として、図 2 の記憶装置 2 0 である「本体内メモリ」が表示されている。操作パネル着脱部 1 3 の操作キー 9、または携帯型記憶装置 2 0 2 操作キー 2 0 5 で下向き矢印キー 2 0 5 a を押すことによって、図 8 (b) に示すようなプルダウンメニュー 2 2 1 が表示される。このプルダウンメニュー 2 2 1 の表示において、指定されている「本体内

メモリ」の行 2 2 2 は、背景色などを変えて表示される。下向き矢印キー 2 0 5 a を押すとこの行 2 2 2 が下方に移動し、上向き矢印キー 2 0 5 b を押すと行 2 2 2 が上方に移動する。行 2 2 2 として所望の選択肢の色が変っている状態で、設定キー 2 0 5 c を押すと、その設定がファクシミリ本体 4 の記憶装置 2 0 に記憶されるとともに、図 8 (a) の表示に戻る。ただし、このときは、ダイアログボックス 2 2 0 内に、新たに指定した保存先が表示される。

【 0 0 8 4 】

ここで、操作キー 2 0 5 の下向き矢印キー 2 0 5 a、上向き矢印キー 2 0 5 b および設定キー 2 0 5 c や、プルダウンメニュー 2 2 1 は実現方法の一例である。他のキーや、他の設定候補の表示方式を使うこともできるので、図 8 は本発明の対象とする設定の実現方法を限定するものではない。また、保存先と同様に、インターネット接続の際に利用する情報もどの記憶装置を利用するか、設定可能とする。あるいは、保存先を指定すれば、同時に指定されるようにすることもできる。

【 0 0 8 5 】

なお、図 8 (b) では、「着脱式操作パネル」で操作パネル着脱部 1 3 を示し、「携帯型記憶装置 A」および「携帯型記憶装置 B」で 2 つの携帯型記憶装置 2 0 2 を区別するものとする。2 つの携帯型記憶装置 2 0 2 は、ファクシミリ本体 4 に複数の IC メモリカード I / F 2 4 を設けて、2 つの携帯型記憶装置 2 0 2 を装着可能にしている場合に対応する。また、ファクシミリ本体 4 には、1 つの携帯型記憶装置 2 0 2 しか装着可能でなくても、子機 3 や操作パネル着脱部 1 3 などの分離ユニットに携帯型記憶装置 2 0 2 を装着可能にすれば、2 つの携帯型記憶装置 2 0 2 を装着することができる。このような場合、2 つの携帯型記憶装置 2 0 2 は、同一の規格に従うものを用いて、装着する位置で区別することができる。また、規格が違うものを用いて、規格によって区別することもできる。

【 0 0 8 6 】

図 8 (b) に示すようなこのプルダウンメニュー 2 2 1 には、子機 3 も含めることもできる。複数の子機 3 を同時に使用しているときは、保存先としてどの子

機 3 を使用するかも選択可能にすることができる。

【 0 0 8 7 】

I - F A X 装置 2 0 1 を動作させるために、使用者は携帯型記憶装置 2 0 2 または操作パネル着脱部 1 3 のうちの少なくとも 1 つを装着しておく必要がある。このため、いずれも装着されて否場合は、使用者に警告を発する。警告手段としては、送受話器 5 やブザーなどの音によるものや、光の点滅などを利用することができる。

【 0 0 8 8 】

また、操作パネル着脱部 1 3 は、個人情報の処理およびインターネット 1 0 0 に接続する処理以外にも、I - F A X 装置 2 0 1 のあらゆる機能の操作において必要であるため、携帯型記憶装置 2 0 2 の装着の有無にかかわらず、操作パネル着脱部 1 3 がファクシミリ本体 4 に接続されていない場合は、使用者に警告を発するようにすることもできる。さらに、携帯型記憶装置 2 0 2 と操作パネル着脱部 1 3 との両方が装着されている場合、または複数の携帯型記憶装置 2 0 2 が装着されている場合には、使用者に警告を発し、どの記憶装置に記憶されている情報を有効とするか、または情報をどの記憶装置に記憶するか、対話的に指定することで、以後のプロセスに移行するようにしておく。あるいは、事前に、使用の優先順位を付ける方法もある。

【 0 0 8 9 】

図 9 は、記憶装置の使い分けについての処理の手順を詳細に示す。前述のような設定で個人情報の保存先が予め設定されているものとする。したがって、I - F A X 装置 2 0 1 が通信を行う処理において、個人情報が必要となる場合、あるいは個人情報を保存処理を行う場合には、ステップ s 0 から手順を開始し、ステップ s 1 では情報の保存場所をチェックする。ステップ s 1 以下の処理は、電源投入後の最初、図 8 に示すような設定内容の変更操作が行われた場合、または操作パネル着脱部 1 3 または携帯型記憶装置 2 0 2 の着脱の操作があった場合に実行される。これら以外の場合には、記憶されている設定内容に従って情報の読み書きを行う仕組みとなっている。

【 0 0 9 0 】

ステップ s 1 のチェックにより、「本体内」が設定されていると判断される場合、ステップ s 2 で、携帯型記憶装置 2 0 2 の装着状態をチェックする。携帯型記憶装置 2 0 2 が装着されていると判断するときは、ステップ s 3 で、設定誤りの可能性もあるので、「本体内」が設定されている旨の表示を行い、設定誤りの可能性を考慮した確認を行う。ステップ s 4 では、表示で確認して、保存場所を変更する指示を受入可能にする。ステップ s 5 では、使用者からの変更指示を待つ。たとえば一定時間が経過するまで待つ、変更指示の有無を判断することができる。

【 0 0 9 1 】

ステップ s 2 で携帯型記憶装置 2 0 2 が装着されていないと判断するとき、またはステップ s 5 で変更指示が無いと判断するとき、ステップ s 6 で、ファクシミリ本体 4 内の記憶装置 2 0 を情報保存場所として有効に設定する。次のステップ s 7 では、ファクシミリ本体 4 内に情報を記憶し、またはファクシミリ本体 4 内の情報を読み出して使用する旨の表示を行う。

【 0 0 9 2 】

ステップ s 1 で保存先として「携帯型記憶装置」が設定されていると判断するとき、またはステップ s 5 で変更指示があると判断されるとき、ステップ s 8 で携帯型記憶装置 2 0 2 の装着の有無を判断する。ステップ s 8 のチェックで携帯型記憶装置 2 0 2 が複数装着されていると判断される場合は、設定誤りの可能性があるので、ステップ s 9 で複数の携帯型記憶装置 2 0 2 が装着されている旨の警告表示を行い、使用者からの指示を待つ。ステップ s 1 0 で保存場所の指示があれば、ステップ s 1 1 に移る。ステップ s 1 1 には、ステップ s 8 で携帯型記憶装置 2 0 2 が 1 つだけ装着されていると判断される場合も移行する。ステップ s 1 1 では、指定された携帯型記憶装置 2 0 2 を保存場所として有効に設定し、ステップ s 1 2 で、携帯型記憶装置 2 0 2 に情報を記憶し、または携帯型記憶装置 2 0 2 の情報を読出して使用する旨の表示を行う。

【 0 0 9 3 】

ステップ s 8 で、携帯型記憶装置 2 0 2 の装着が無いと判断するときは、設定が無効であるため、ステップ s 1 3 で携帯型記憶装置 2 0 2 が装着されていない

旨の警告表示を行い、携帯型記憶装置 2 0 2 の装着、または記憶場所の変更を待つ。ステップ s 1 4 では、携帯型記憶装置 2 0 2 の装着が検出されるかされないかを判断する。装着が検出されれば、ステップ s 8 に戻り、装着数に応じた処理を行う。ステップ s 1 4 で携帯型記憶装置 2 0 2 の装着が検出されないときは、ステップ s 1 5 で使用者からの変更指示の有無を判断する。変更指示が無ければステップ s 1 3 に戻る。ステップ s 1 5 で変更指示が有ると判断するときは、ステップ s 5 に進む。ステップ s 7 またはステップ s 1 2 が終了すると、ステップ s 1 6 で全体の手順も終了する。

【 0 0 9 4 】

【発明の効果】

以上のように本発明によれば、インターネットファクシミリ等のインターネットへ接続可能な通信装置において、インターネットに関する個人別画像情報や個人情報などを、装置本体に対して着脱可能な、あるいは別ユニットとして携帯可能な記憶装置に記憶することを可能とし、また、当該記憶装置には表示手段、およびキーボードなどの入力手段を備えることにより、通信装置を占有することなく、インターネットに接続するために必要な情報の新規作成や修正などの編集を行うことができる。また、通信装置を占有することなく、インターネットから受信する情報を、記憶しておいて閲覧することも可能となる。すなわち、実際に通信を行う時にだけ通信装置に記憶装置を装着すればよく、これ以外の時は、通信装置から取外した状態で、記憶装置を使用することができる。これによって、複数の使用者が利用する通信装置に対し、各使用者が占有する時間を減らし、1 台の通信装置を多くの使用者で共有することが可能となり、また通信装置が複数台ある場合には、各使用者は、記憶装置を装着するだけで、どの通信装置でも同様に使用することができる。記憶装置を装置本体から離脱させれば、記憶されている情報の秘密を確実に保持することができる。

【 0 0 9 5 】

また本発明によれば、各使用者の使用用途や好みなどによって、記憶装置を使用しないように設定手段に無効を設定することも可能になる。この設定は、記憶装置を使用して、各使用者個人の情報を使って通信を行うことを可能にすると

もに、複数の使用者に共通な設定および情報を持つことも可能にしており、より多くの使用者とより広い用途とに、通信装置を使用することを可能にする。

【 0 0 9 6 】

また本発明によれば、設定手段への設定内容と記憶装置の有無をチェックすることにより、多くの使用者が1つの通信装置を共用して、設定内容がさまざまに変更されるような中でも、設定ミスや設定誤りを防ぐことができる。

【 0 0 9 7 】

さらに本発明によれば、インターネットへ接続可能な通信装置において、インターネットでの通信対象となる情報やインターネット接続に必要な設定情報を含む個人別情報などを、装置本体に対して分離可能な分離ユニットの記憶手段に記憶することを可能にしている。通信装置を使用する複数の使用者のうちの各使用者は、個人別情報を記憶している分離ユニットを装置本体に接続するだけで、通信装置を専用の装置と同様に使用することができる。また通信装置が複数台ある場合には、各使用者は、分離ユニットを接続するだけで、どの通信装置でも同様に使用することができる。分離ユニットを装置本体に接続しなければ、記憶されている情報の秘密を確実に保持することができる。

【 0 0 9 8 】

また本発明によれば、インターネットファクシミリ等のインターネットへ接続可能な通信装置は、装置本体と分離ユニットとの外に、記憶装置をさらに含む。インターネットに関する個人別画像情報や個人情報などを、装置本体または分離ユニットに対して着脱可能な、あるいは別ユニットとして携帯可能な記憶装置に記憶することを可能とし、また、当該記憶装置には表示手段、およびキーボードなどの入力手段を備えることにより、通信装置を占有することなく、インターネットに接続するために必要な情報の新規作成や修正などの編集を行うことができる。また、通信装置の装置装置や分離ユニットを占有することなく、インターネットから受信する情報を、記憶しておいて閲覧することも可能となる。すなわち、実際に通信を行う時にだけ通信装置に記憶装置を装着すればよく、これ以外の時は、通信装置から取外した状態で、記憶装置を使用することができる。これによって、複数の使用者が利用する通信装置に対し、各使用者が占有する時間を減

らし、1台の通信装置を多くの使用者で共有することが可能となり、また通信装置が複数台ある場合には、各使用者は、記憶装置を装着するだけで、どの通信装置でも同様に使用することができる。記憶装置を装置本体から離脱させれば、記憶されている情報の秘密を確実に保持することができる。

【0099】

また本発明によれば、各使用者の使用用途や好みなどによって、記憶装置を使用しないように設定手段に無効を設定することも可能になる。この設定は示す、記憶装置を使用して、各使用者個人の情報を使って通信を行うことを可能にするとともに、複数の使用者に共通な設定および情報を持つことも可能にしており、より多くの使用者とより広い用途とに、通信装置を使用することを可能にする。

【0100】

また本発明によれば、設定手段への設定内容と記憶装置の有無をチェックすることにより、多くの使用者が1つの通信装置を共用して、設定内容がさまざまに変更されるような中でも、設定ミスや設定誤りを防ぐことができる。

【0101】

また本発明によれば、設定手段に分離ユニットおよび記憶装置を有効に設定しておけば、分離ユニットが接続されて記憶装置が装着されていなければ分離ユニットの情報、分離ユニットが接続されていなくて記憶装置が装着されていれば記憶装置の情報をそれぞれ利用して、インターネットを介する通信を行うことができる。

【0102】

また本発明によれば、インターネットに関する情報を記憶している分離ユニットや記憶装置を同時に複数接続したり装着しても、優先順位に従ってインターネットを介する通信に使用する情報を選択することができる。

【0103】

また本発明によれば、操作パネルを装置本体に対して着脱可能で、装着状態でも分離状態でも通信機能の操作入力が可能とし、インターネットに関する個人的な情報を記憶させて、インターネットを介する通信を行うことができる。

【0104】

また本発明によれば、子機にインターネットに関する個人的な情報を記憶させ、インターネットを介する通信を行うことができる。

【0105】

さらに本発明によれば、汎用的なコンピュータと、記憶装置や分離ユニットとを利用して、記憶装置や分離ユニットにインターネットに関する個人的な情報を記憶させ、インターネットを介する通信を、複数の使用者があたかも個人の装置のように行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施の一形態であるI-FAX装置1の外観構成を示す斜視図である。

【図2】

図1のI-FAX装置1で親機2として機能する部分の電氣的構成を示すブロック図である。

【図3】

図1のI-FAX装置1で、子機3として機能する部分の電氣的構成を示すブロック図である。

【図4】

図1のI-FAX装置1に使用する子機3の他の例の外観を示す正面図である。

【図5】

図1のI-FAX装置1をI-FAX装置101～104としてインターネット100に接続するシステム構成を示す図である。

【図6】

本発明の実施の他の形態であるI-FAX装置201の外観構成を示す斜視図である。

【図7】

図6の携帯型記憶装置202の概略的な電氣的構成を示すブロック図である。

【図8】

図6のI-FAX装置201で、どの記憶装置を情報の保存先に選択するかを設定する画面の例を示す図である。

【図9】

図6のI-FAX装置201で、記憶装置を使い分けて処理を行う手順を示すフローチャートである。

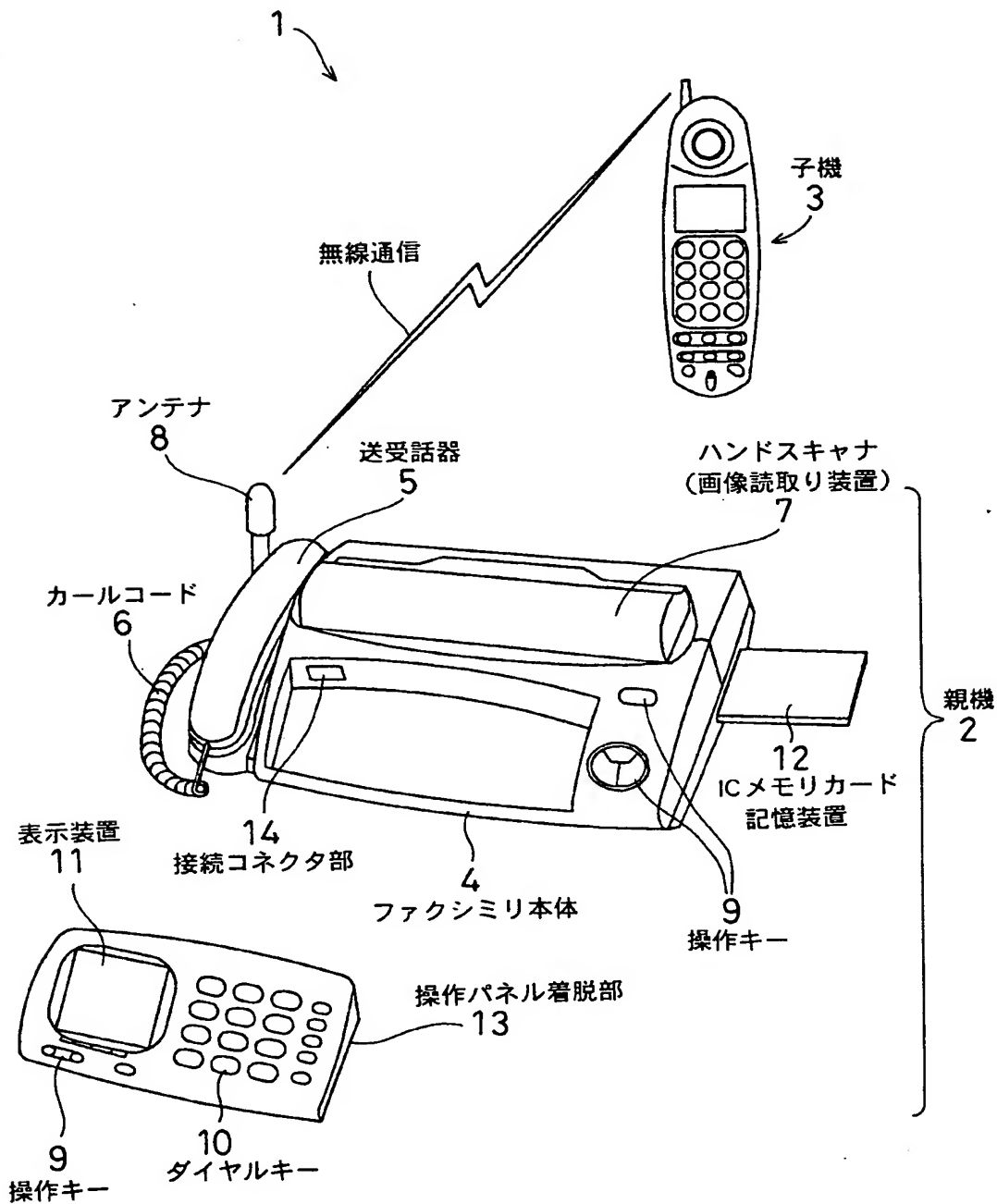
【符号の説明】

- 1, 101~104, 201 I-FAX装置
- 2 親機
- 3 子機
- 4 ファクシミリ本体
- 5 送受話器
- 6 カールコード
- 7 画像読取り装置（ハンドスキャナ）
- 8 アンテナ
- 9, 206 操作キー
- 10, 205 ダイヤルキー
- 11, 207 表示装置
- 12 ICメモリカード
- 13 操作パネル着脱部
- 14 接続コネクタ部
- 15, 215 制御装置
- 16 モデム
- 17 網制御装置
- 18 画像記憶装置
- 19 印刷装置
- 20, 210 記憶装置
- 21, 211 パラレルI/F
- 22 LAN I/F
- 23 コードレス用制御回路

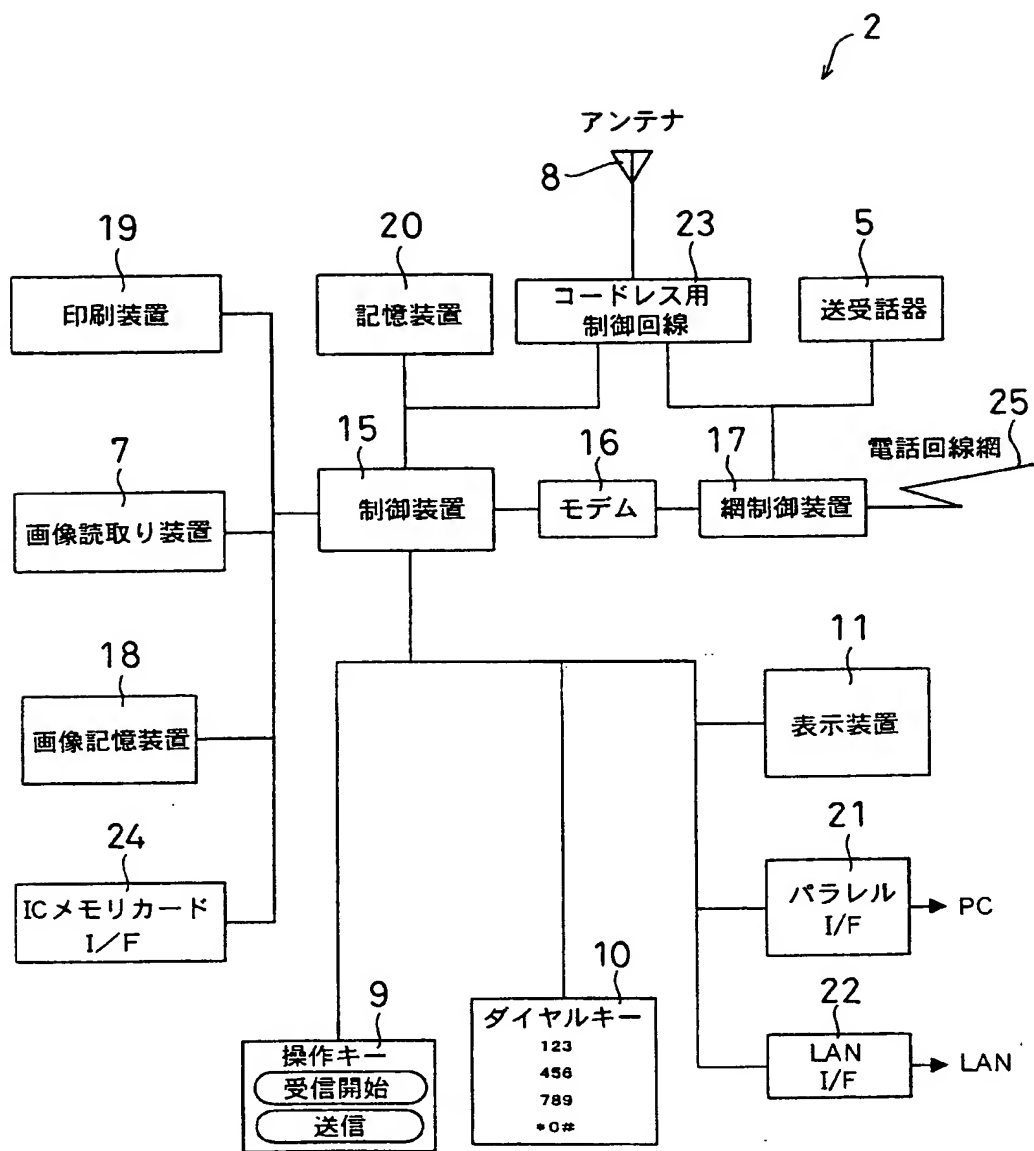
- 24 ICメモリカードI/F
- 25 電話回線網
- 31 子機ダイヤルキー
- 32 子機操作キー
- 33 子機表示装置
- 34 子機制御装置
- 35 子機スピーカ
- 36 子機マイク
- 37 子機チューナ
- 38 子機アンテナ
- 39 子機記憶装置
- 100 インターネット
- 110 LAN ネットワーク
- 111 プロバイダ
- 115, 122 公衆回線網
- 117, 118 パーソナルコンピュータ
- 119, 131 ルータ
- 120, 130 サーバコンピュータ
- 121 ケーブル
- 202 携帯型記憶装置
- 212 バッテリ
- 220 ダイアログボックス
- 221 プルダウンメニュー
- 222 行

【書類名】 図面

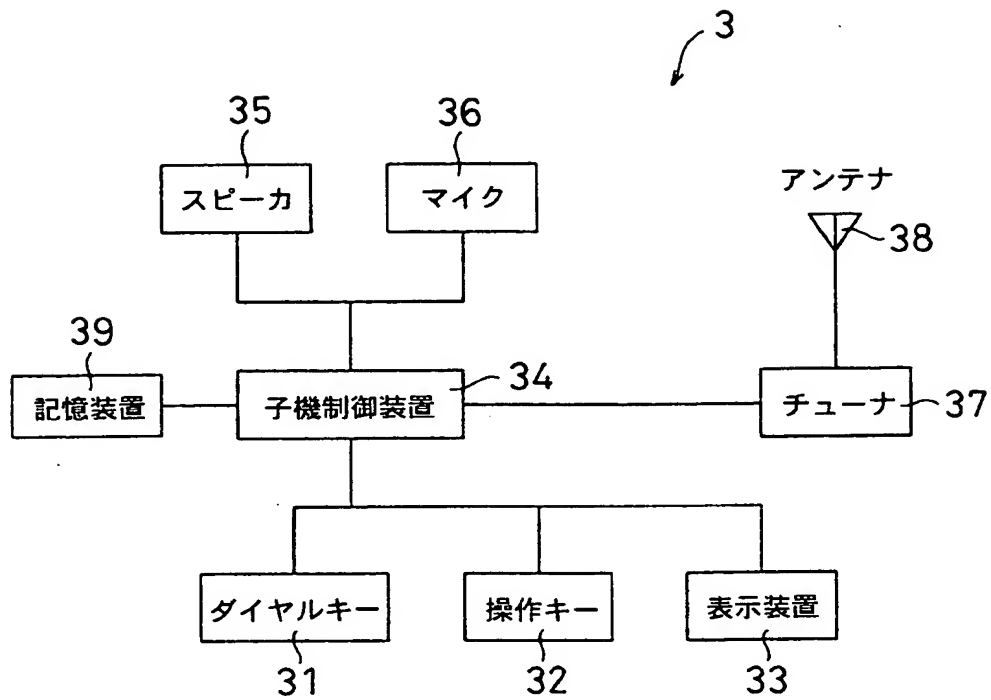
【図 1】



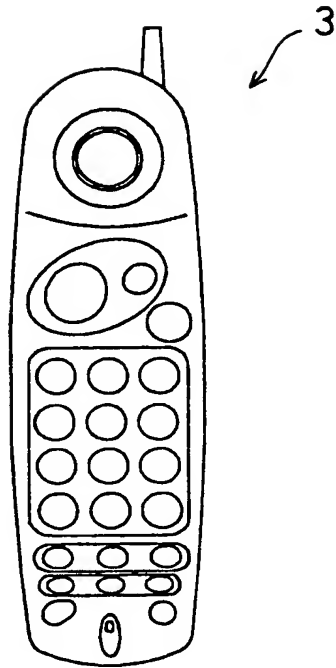
【図 2】



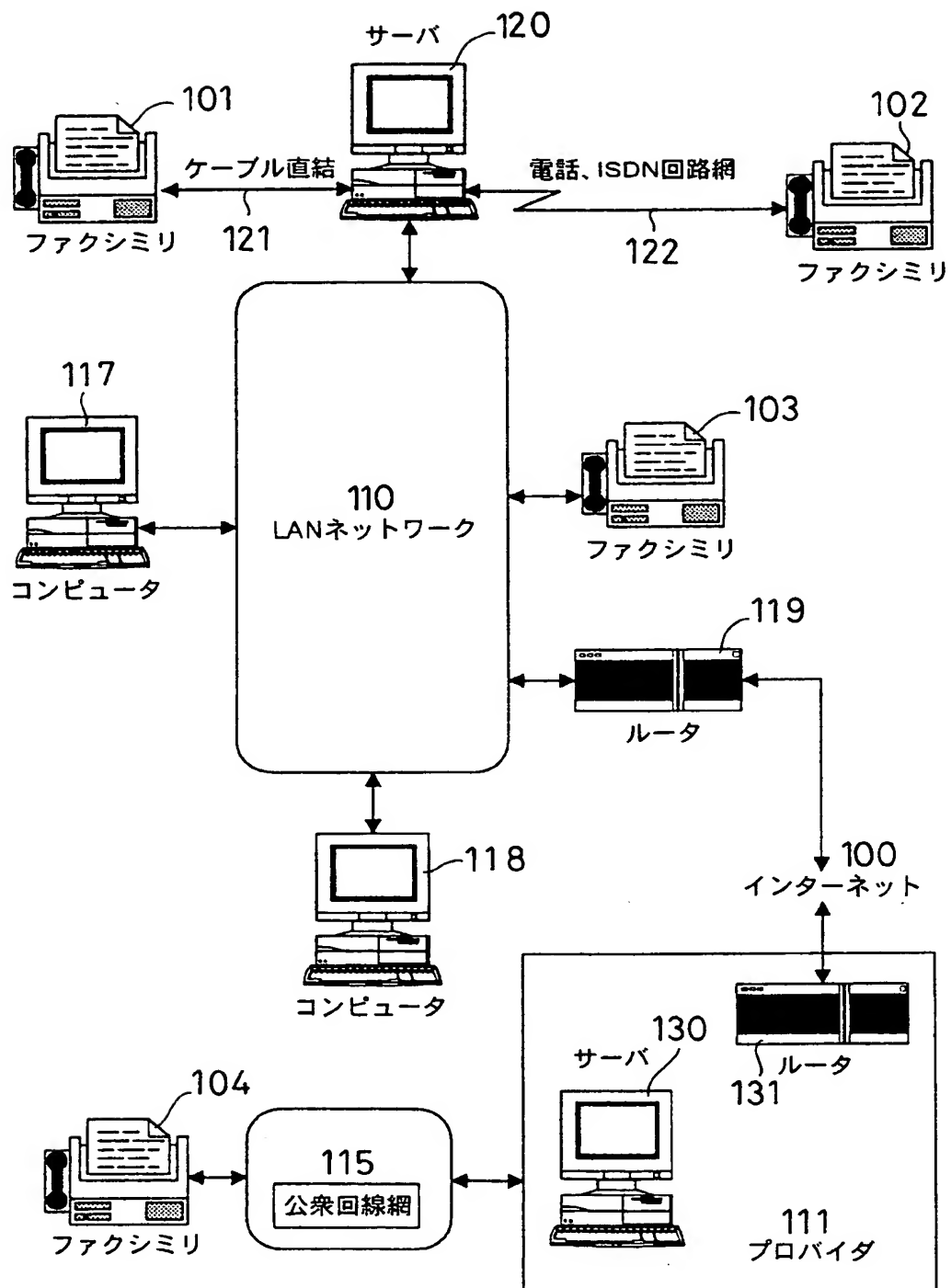
【図 3】



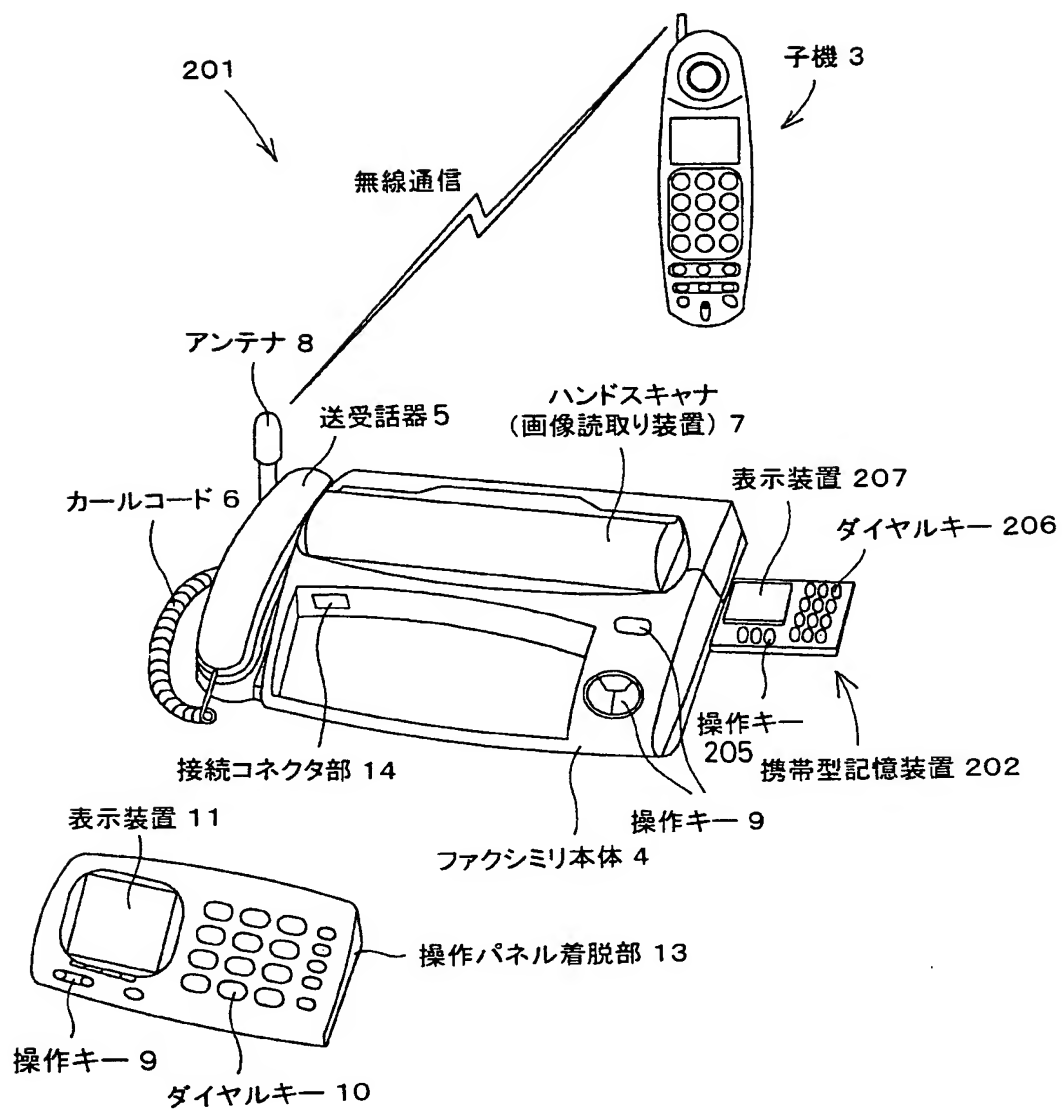
【図 4】



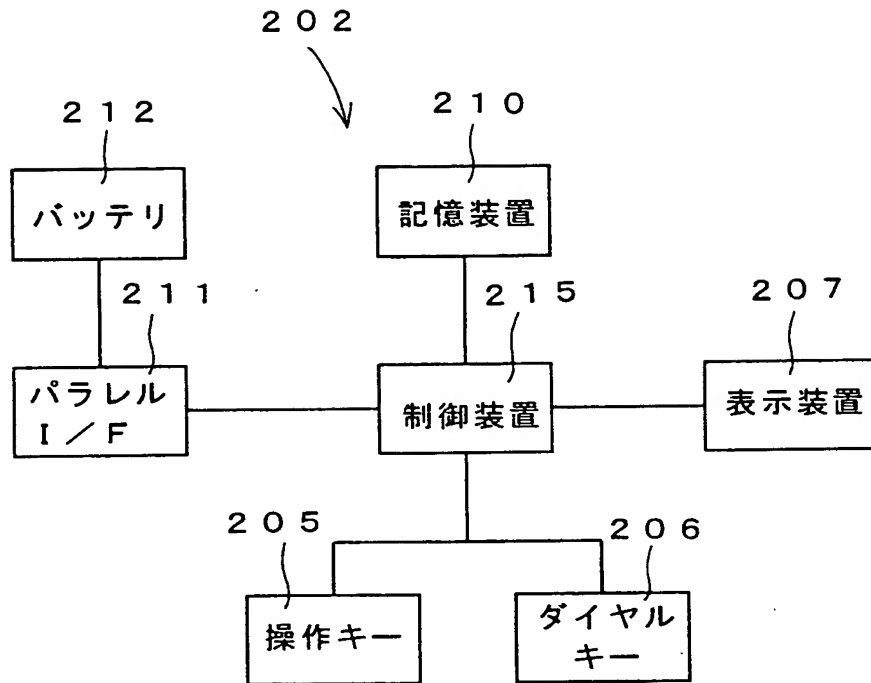
【図 5】



【図6】



【図 7】



【図8】

(a)

<<保存先設定>> 情報の保存先を指定します。

保存先:

本体内メモリ ▼

設定

207

220

205a

205

(b)

<<保存先設定>> 情報の保存先を指定します。

保存先:

本体内メモリ ▼

着脱式操作パネル

携帯型記憶装置A

携帯型記憶装置B

設定

207

222

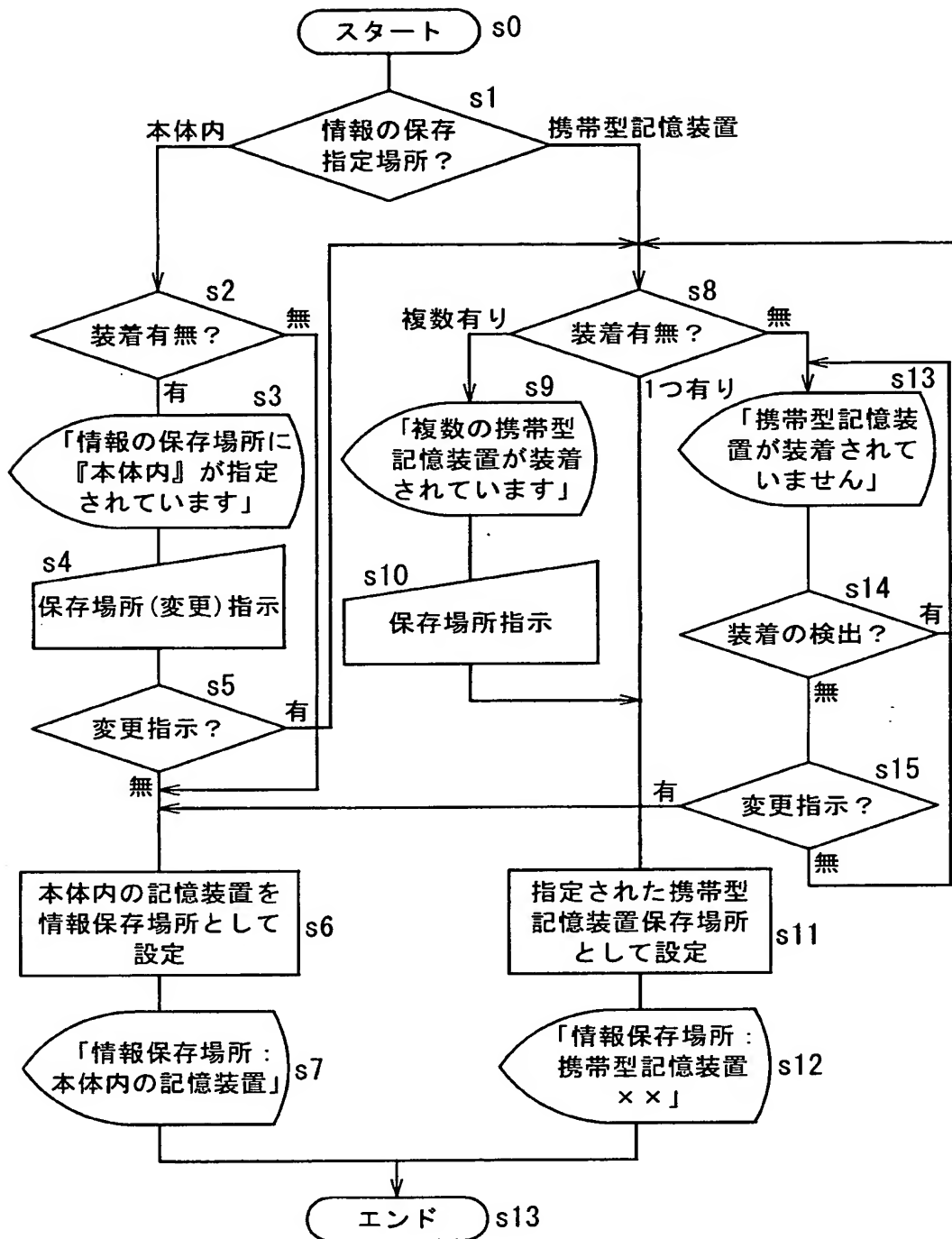
221

205b

205a

205c

【図9】





【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 インターネットに関する個人別の情報を、各使用者が携帯する記憶装置などを装着することで、自分だけの装置のように使用できるようにする。

【解決手段】 I - F A X 装置 2 0 1 は、インターネットに接続してファクシミリ通信を行う機能を有し、親機 2 として子機 3 を使用することもできる。操作パネル着脱部 1 3 は、ファクシミリ本体 4 の操作キー 9 の一部、ダイヤルキー 1 0 および表示装置 1 1 を有し、分離可能である。操作パネル着脱部 1 3、子機 3、および I C メモリカードなどの携帯型記憶装置 2 0 2 は、ファクシミリ本体 4 と分離可能なユニット、別ユニットである携帯可能な記憶装置であり、これらにインターネットに関する個人別の情報を記憶して、I - F A X 装置 2 0 1 を利用することができる。携帯型記憶装置 2 0 2 には、ダイヤルキー 2 0 5、操作キー 2 0 6 および表示装置 2 0 7 が設けられ、ファクシミリ本体 4 等から独立して、情報の表示や編集を行うことができる。

【選択図】 図 6

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 5 0 4 9]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 2 9 日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号

氏 名 シャープ株式会社